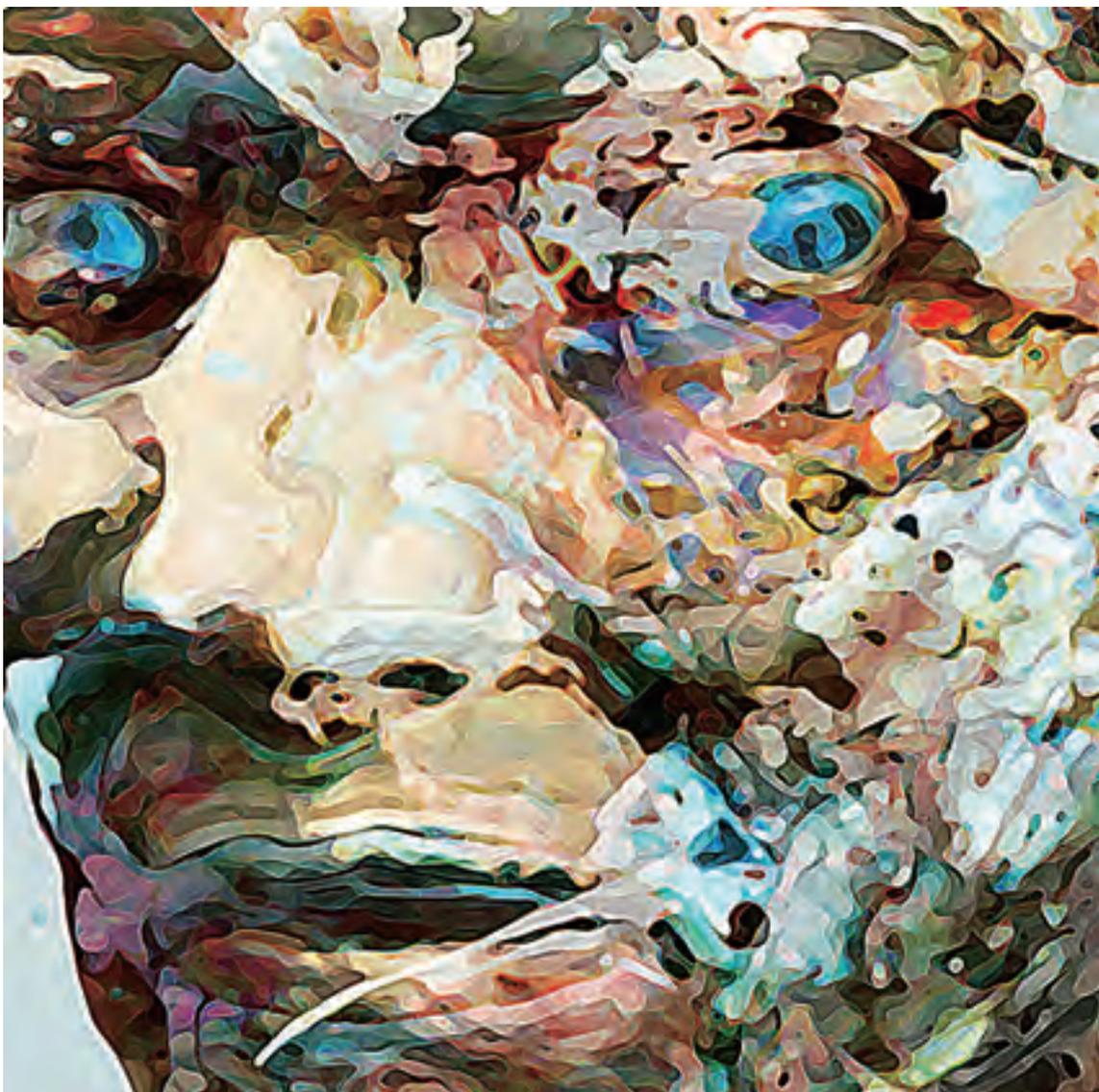


21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa

PRESS RELEASE

サイトウ・マコト展 SCENE [0]

会期：2008年8月2日(土)～11月3日(月・祝)



サイトウ・マコト《切り取られた顔》2007
アクリル、オイルインク／カンヴァス 60×60 cm
©Makoto Saito



金沢21世紀美術館
21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa

サイトウ・マコト展：SCENE [0]

グラフィック・デザインの領域で国際的に知られるサイトウ・マコトによる国内初の大規模な個展。1980～90年代、斬新な表現によってグラフィック・デザインの常識を破り、時代を塗り替えてきたサイトウ・マコトが、本個展において長年あためてきた絵画作品を約50点初公開します。サイトウが21世紀の世界に向けて発言する注目の新作展です。

サイトウのこれまでの幅広い創作活動は、「見る」という行為への無限の問いかけのなかで形作られてきました。デザインの領域で活躍する一方で、1990年代半ばからは本格的に絵画の研究も始めています。今回サイトウは、幼少のころから親しみ、自身にとって特別な意味をもつ映画から一瞬のショットを切り取り、デジタルという現代のフィルターを通して大胆に解体するなど、これまで一貫して培ってきた現代への鋭い視点を反映した絵画作品を発表します。本展は、このように「見る」行為を「描く」という行為へと広げた、サイトウの現在を展観するものです。

作品のなかの人物像は、いずれも体温を感じさせない冷ややかな空気に包まれています。温かさやナチュラルさといった癒しを安易に求める昨今の風潮に挑むかのように、温度のないゼロ地点-SCENE [0]-からうごめきだす不穏な世界。独自のモチーフとテクスチャーにより創出されるサイトウの絵画空間は、時代の新しい感触をとらえ、現代に生きる私たち自身の姿を容赦なく映し出します。

展覧会の特徴

サイトウ・マコトの初の個展

本展は、グラフィック・デザインの領域で国際的に知られるサイトウ・マコトによる国内初の大規模な個展です。サイトウは、80年代から90年代、デザインの常識を破る活動を展開。近年はグラフィックにとどまらず、プロダクト・デザイン、商品開発、映像監督など多分野において時代の表現を続けてきました。本展で、サイトウ・マコトの新たな視覚表現のかたちとして、サイトウが長年温めてきた絵画作品を約50点展示し、サイトウ・マコトの表現の今を展覧します。今回の展覧会を絵画作品の初の発表の場として、サイトウは表現者として新たな第一歩を踏み出します。

サイトウ・マコトがとらえる「今」を映し出す絵画空間

グラフィック・デザイナーとして時代を塗り替えてきたサイトウ・マコトは、新しく表現媒体として選んだ絵画においても、「デジタル・ペインティング」という型破りな展開を見せます。

これまで誰も体験したことのない新しいテクスチャーを実現した、このデジタル・ペインティングにおいてサイトウが描き出すのは、デジタルという現代のフィルターを通してサイトウが見つめた、現代に生きる人間像です。一見クールな表面からうごめきだす重層的なイメージは、これまでにない全く新しい絵画空間として注目を集めることでしょう。

対談で多角的にアプローチ

本展では、関連企画として「ゼロ地点」オープニング連続対談を開催。空間デザイン、プロダクト・デザインの分野で知られるデザイナー吉岡徳仁氏、評論家、京都造形芸術大学大学院長の浅田彰氏との対談を通して、サイトウ・マコトのこれまでとこれからを多角的に掘り下げます。

サイトウ・マコトの絵画作品を紹介する初の作品集を出版

サイトウ・マコトの初の絵画作品集が、本展覧会に合わせて Art Design Publishing | ADP から出版されます。浅田彰氏の論考、作家インタビューも収録。中島英樹氏がデザインを手掛けた注目のこの作品集、展覧会の記録としてのみでなく、彼の作品の魅力を存分に味わえる充実の一冊です。

出版物

『MAKOTO SAITO SCENE [0]』 (出版：ADP | Art Design Publishing)

アートディレクション／デザイン：中島英樹(中島デザイン)
約 130 頁、ソフトカバー(W26 x H32.5cm)
カラー図版 80 点を含む初の作品集(英語)。
日本語訳冊子付き。



展覧会概要

- 【展覧会名(日)】 サイトウ・マコト展 : SCENE [0]
【展覧会名(英)】 MAKOTO SAITO : SCENE [0]
【展覧会会期】 2008年8月2日(土) - 11月3日(月・祝)
【閉場日】 毎週月曜日
(ただし 9月15日、9月22日、10月13日、11月3日は開場)
9月16日(火)、10月14日(火)
【開館日数】 83日
【主催】 金沢21世紀美術館 [(財)金沢芸術創造財団]
【展覧会会場】 金沢21世紀美術館 展示室7~12、14
【出品作品】 約50点
【料金】 一般1000円(800円)、大学生800円(600円)、
小中高生400円(300円)、65歳以上の方800円
※「ロン・ミュエック展」との共通観覧券(8月31日まで)
一般1600円(1500円)、大学生1300円(1200円)、
小中高生700円(600円)、65歳以上の方1300円
*()内は団体料金(20名以上)及び前売りチケット料金

関連イベント

● サイトウ・マコト「ゼロ地点」オープニング連続対談

1. 「ショットをつかまえる。」

吉岡徳仁(デザイナー) × サイトウ・マコト

日時: 8月2日(土) 14:00~15:30 (開場 13:30)

会場: 金沢21世紀美術館レクチャーホール、展示室内

定員: 先着80名 (当日10時よりレクチャーホール前で整理券を配布します)

料金: 無料 (ただし、本展観覧券が必要)

2. 「突き放す! : グラフィック・デザインの廃墟からの絵画の誕生」

浅田彰(京都造形芸術大学大学院長) × サイトウ・マコト

日時: 8月3日(日) 14:00~15:30 (開場 13:30)

会場: 金沢21世紀美術館レクチャーホール、展示室内

定員: 先着80名 (当日10時よりレクチャーホール前で整理券を配布します)

料金: 無料 (ただし、本展観覧券が必要)

● 学芸員によるギャラリー・トーク

日時: 8月16日(土)、9月6日(土)、10月25日(土) 各14:00~15:00

集合場所: 金沢21世紀美術館 レクチャーホール

料金: 無料 (ただし、本展観覧券が必要)

● 子ども向けプログラム「気になる人を探そう!」

作品の鑑賞とワークショップを行います。

日時: 9月23日(火・祝) 13:00-16:00

集合場所: 金沢21世紀美術館 キッズスタジオ

定員: 先着15名 (対象: 小学生~中学生、家族の同伴は可能です)

料金: 無料 (ただし、本展の観覧券が必要)

申込方法: お電話(076-220-2801)またはEメール(kids_21@kanazawa21.jp)にてお申し込みください。

定員になり次第、締め切ります。

● ママパパ向けギャラリー・ツアー

美術館スタッフと一緒に作品を鑑賞します。

授乳室や託児など、親子で来館したときに役立つ情報もお伝えします。

日時: 9月11日(木) 10:30~11:50

集合場所: 金沢21世紀美術館 キッズスタジオ

定員: 先着15名 (対象: 妊娠中の方、乳幼児の保護者 *託児室あり。要予約)

料金: 無料 (ただし、本展の当日観覧券が必要)

申込方法: お電話(076-220-2801)またはEメール(kids_21@kanazawa21.jp)にてお申し込みください。

定員になり次第、締め切ります。

※ イベントは都合により変更になることがあります。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

作家プロフィール

サイトウ・マコト (SAITO MAKOTO)

1952年福岡県出身。

1970年代よりグラフィックデザインに携わり、80年にデビュー。当時から国内外で注目され、日本、アメリカ、ヨーロッパ、南米などでデザイナーとして驚異的な受賞歴を持つ。そのグラフィック作品は、ニューヨーク近代美術館をはじめ、世界30以上の美術館にコレクションされており、サンフランシスコ近代美術館では約80点を所蔵。

1990年代半ばよりデザイン活動の傍ら絵画の研究を始め、今回の出展作品の原型を創り始める。近年新しい表現方法を用いた絵画制作を始め、幼少期の記憶に刷り込まれた映画のシーンをもとに、人間のイメージを大胆に解体、再構築を試みる。今回の金沢21世紀美術館での展覧会をこれらの絵画作品の初の発表の場とし、新たに画家としての第一歩を踏み出す。



主な展覧会

- 1986 「日本現代絵画83人展」(インド国立近代美術館)
 - 1987 「現代のアイコン:かみとひとものときとのなかに」(埼玉県立近代美術館)
 - 1989 「地・間・余白—今日の表現から」(埼玉県立近代美術館)
 - 1994 「Japanese Design: A Survey Since 1950」
(フィラデルフィア美術館、ボンピドゥーセンター国立近代美術館/パリ、サントリーミュージアム天保山/大阪)
 - 1996 「サイトウ・マコト 現代デザインの視点」(サンフランシスコ近代美術館)
 - 1998 「Makoto Saito: Art of the Poster」 Huntington Gallery (AIGAボストン、マサチューセッツ美術大学)
 - 2003 「The Art of Design: The Architecture and Design Collection」(サンフランシスコ近代美術館)
「Makoto Saito _ The Tokio Graphism」(ハンブルグ美術館/ドイツ)
 - 2005 「サイトウマコト展」(サンフランシスコ近代美術館)
- 他多数

主な受賞歴

- 1979 第13回現代日本美術展 兵庫県立近代美術館賞(日本)
 - 1983 東京アートディレクターズクラブADC最高賞(日本)
 - 1984 第9、10回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ展金賞(ポーランド)
日米グラフィックデザイン展金賞(USA)
 - 1985 第1回世界ポスタートリエンナーレヤマ展金賞・銅賞2点(日本)
 - 1987 第1回ニューヨークアートディレクターズクラブ国際展金賞(USA)
第18回現代日本美術展 兵庫県立近代美術館賞(日本)
'87 毎日デザイン賞(日本)
 - 1988 第2回ニューヨークアートディレクターズクラブ国際展金賞(USA)
第2回世界ポスタートリエンナーレヤマ展金賞・銅賞(日本)
 - 1989 第3回ニューヨークアートディレクターズクラブ国際展金賞・銀賞(USA)
第8回ラハティ国際ポスタービエンナーレ展グランプリ(フィンランド)
第5回フランスポスター国際展グランプリ(フランス)
コロラド国際ポスター招待展最高賞(USA)
 - 1990 第13回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ展銀賞(ポーランド)
第19回ブルーノ国際グラフィックビエンナーレ展銀賞(チェコ)
第6回フランスポスター国際展グランプリ(フランス)
 - 1991 東京アートディレクターズクラブADC会員賞(日本)
第3回世界ポスタートリエンナーレヤマ展金賞(日本)
 - 1992 第6回ニューヨークアートディレクターズクラブ国際展金賞(USA)
 - 1995 東京アートディレクターズクラブグランプリ(日本)
 - 1995 GOOD DESIGNアワード受賞 '95~'01まで連続受賞(USA)
 - 1996 メキシコ国際ポスタービエンナーレ展銀賞(メキシコ)
 - 1998 第77回ニューヨークアートディレクターズクラブ金賞、特別賞(USA)
 - 2001 ドイツレッドドットアワード ベストオブベストアワード受賞(ドイツ)
 - 2002 第18回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ展金賞(ポーランド)
- 他多数

主なパブリック・コレクション

- ニューヨーク近代美術館
 - ポズナニ美術館(ポーランド)
 - サンフランシスコ近代美術館
 - チューリッヒ造形美術館
 - ヴィクトリア&アルバート美術館(イギリス)
 - コロラド州立大学
 - ミュンヘン応用美術館
 - シカゴ・アテニウム
 - ヴィラヌフ・ポスター美術館(ポーランド)
 - フィラデルフィア美術館
 - ラハティ市立美術館(フィンランド)
 - 香港文化美術館
 - ステデリック美術館(オランダ)
 - 東京国立近代美術館
 - ブランデンブルグ美術館(ドイツ)
 - 富山県立近代美術館
 - ハンブルグ美術館(ドイツ)
 - 兵庫県立近代美術館
 - デザイン美術館(ロンドン/イギリス)
- 他多数

広報用画像

※画像掲載の際には必ず以下のクレジットをご明記下さい。



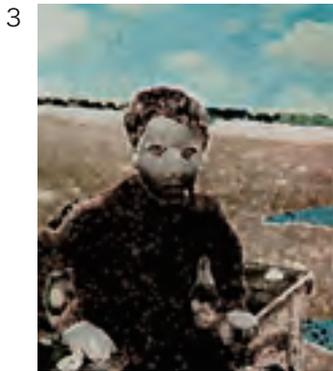
映画監督ミケランジェロ・アントニオーニのポートレート。
01～07までのバリエーションを円形の展示空間に展示。

サイトウ・マコト
《I am [ポートレート・オブ・ミケランジェロ・アントニオーニ] 04》
2007 アクリル、オイルインク／カンヴァス 160×146.8 cm
©Makoto Saito



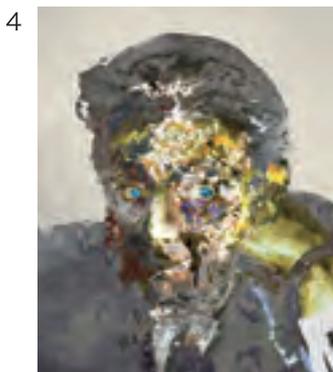
鳩の死骸を手にする男のイメージにつけられた「イノセント
(潔白)」というタイトル。
見る者にさまざまな想像を抱かせる。

サイトウ・マコト
《イノセント》
2007 アクリル、オイルインク／カンヴァス 196×155.8cm
©Makoto Saito



映画監督フランソワ・トリュフォーの映画から。ワンシーンを切り取り、サイトウが自身の幼少期のセルフポートレートとしてイメージを重ねる。
少年の顔からは表情が読み取れず、空に浮かんだ雲とダークな色との対比が不穏な雰囲気を漂わせる。

サイトウ・マコト
《マイセルフ・ポートレート01》
2006 アクリル、オイルインク／カンヴァス 196×155.8cm
©Makoto Saito



サイトウはデザインの領域においても身体の形や顔の表情といったモチーフを好んできた。絵画においても、モチーフとなっているのは圧倒的に人物像が多く、温度を感じさせない独特のテクスチャーで描き出している。
「欲」という言葉を形容する「白い」色。二つの背反するイメージが印象的な本作品においても、鋭い目の表情が観る者に迫る。

サイトウ・マコト
《白い欲》
2007 アクリル、オイルインク／カンヴァス 196 ×155.8 cm
©Makoto Saito

広報用画像

5



サイトウ・マコト
《その男》2007
アクリル、オイルインク/カンヴァス
160 x 146.8 cm ©Makoto Saito

6



サイトウ・マコト
《キューブリック少年期 00》2007
アクリル、オイルインク/カンヴァス
220 x 152.8 cm ©Makoto Saito

7



サイトウ・マコト
《サン》2006
アクリル、オイルインク/カンヴァス
190 x 132 cm ©Makoto Saito

8



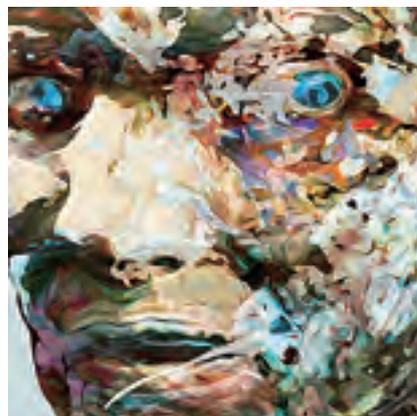
サイトウ・マコト
《ドール》2007
アクリル、オイルインク/カンヴァス
115 x 115 cm ©Makoto Saito

9



サイトウ・マコト
《ミーティング》2007
アクリル、オイルインク/カンヴァス
135 x 220 cm ©Makoto Saito

10



サイトウ・マコト
《切り取られた顔》2007
アクリル、オイルインク/カンヴァス
60 x 60 cm ©Makoto Saito

広報用画像

サイトウ・マコト氏ポートレート

※画像掲載の際には必ず以下のクレジットをご明記下さい。



A



B



C



D

Photo: Hiraku Ikeda
提供: 金沢 21 世紀美術館

本資料に関するお問い合わせ 画像請求のお問い合わせ

金沢 21 世紀美術館 広報担当: 落合・黒田・岡田

本展担当学芸員: 岡村・北出

TEL: 076-220-2811

FAX: 076-220-2806

〒920-8509 金沢市広坂 1-2-1

<http://www.kanazawa21.jp>

E-mail: press@kanazawa21.jp

※7月下旬から8月3日まで、サイトウ・マコト氏が金沢に滞在する予定です。
インタビュー等ご希望の場合は、ご連絡下さい。

展览会開場図

■ サイトウ・マコト展：SCENE [0]
会期：2008年8月2日（土）～2008年11月3日（月・祝）

